

みやぎの人口(令和4年6月末現在)

住民基本台帳人口	2,263,749人	世帯数	1,034,583世帯
男	1,103,812人	※うち、外国人住民基本台帳人口は22,854人です。	
女	1,159,937人		

今号の表紙

子どもたちが空手に挑戦!

南光台東エンジョイ倶楽部の放課後児童スポーツ教室で空手に取り組む子どもたち。元気に施設内を走り回っていた子どもたちでしたが、空手教室が始まると一変。真剣なまなざしで取り組む姿がとても印象的でした。



仙台・宮城観光PRキャラクター
むすび丸



第8回

スポーツがつなぐ 「まち」と「人」

南光台東エンジョイ倶楽部(仙台市)
A・HA仙台総合型地域スポーツクラブ(仙台市)

県政運営の基本指針となる「新・宮城の将来ビジョン」(以下「新ビジョン」)がスタートして2年目を迎えました。本シリーズでは、新ビジョンの理念である「富県躍進」を推進するため、各分野で魅力ある活動に取り組む、県内の企業・団体などを紹介します。

今回は、スポーツを通して地域づくりや子育て支援に取り組む二つの総合型地域スポーツクラブにお話を伺いました。

この取り組みは、子ども・子育て分野の強化のために今年度から新たにスタートした「次世代育成・応援基金」を活用しています。

総合型地域スポーツクラブとは...?
地域住民が主体となって、だれでも、いつでも、どこでも、いつでも気軽にスポーツが楽しめる環境づくりを目指し、クラブ運営を行う非営利の活動組織。

県内のクラブ
一覧はこちら



【写真の説明】[南光台東エンジョイ倶楽部] 1 楽しみながら体を動かす子どもたち 2 クラブの会員が一同に集まった「第11回エンジョイスポーツまつり」(平成30年)
[A・HA仙台総合型地域スポーツクラブ] 3 AOBA FCでの活動の様子 4 エアロピクスに取り組むお母さんたち

南光台東エンジョイ倶楽部 活動の内容は?

地域の住民が一体となり、スポーツや文化活動を通してコミュニティを構築し、地域を元気にしたいという思いで、平成19年に設立しました。

当初は、高齢者向けの活動が主でしたが、近年子どもの体力低下が県全体の課題であること知り、地域の子どもたち向けの体力アップ教室も始めました。

現在は、コミュニティセンターや集会所、学校の体育館や校庭などで、サッカーや卓球、健康マージャン、ヨガ、スポーツ吹き矢など、各世代がさまざまな活動を行っています。

子育て支援の新たな取り組みは?

今年6月から、県の委託を受け、放課後児童スポーツ教室を行っています。放課後に児童のスポーツ機会を創出し、地域の子育て支援にもつなげる取り組みです。元気いっばいの子どもたちがけがをしないようにと毎回ヒヤヒヤしていますが、保護者の方々に安心していただけるよう、日々試行錯誤しています。子どもたちは、専門の講師のもと、毎回汗だくになりながらヒップホップや空手、エアロピクス、体操教室などに取り組んでいます。

地域との関わりは?

地域の皆さんがスタッフとなり、指導者として活動に協力をしてくださる方もいます。

例えば、健康マージャンの指導者は、PTA活動を一緒にしていた方の旦那さんが快く引き受けてくださいました。こうしたPTAや町内会の活動を通してできた長年のつながりをきっかけに、新たな出会いやつながりの場をつくることができました。また、「クラブがなくなると困る」との声が聞こえてくると、このクラブが高齢者の生きがいにもなっていると感じます。

今後の展望は?

この地域が大好きで、地域のために何かできないかと考えて団体を設立し、周囲の皆さんの協力があってここまで続けることができました。地域内での活動場所が限られるといった課題はありますが、町内会など地域との連携をさらに強化し、工夫しながらこの活動を継続できることを願っています。



南光台東エンジョイ倶楽部
会長 清水 誠義さん(右)
事務局長 後藤 道子さん(左)

A・HA仙台総合型地域スポーツクラブ 活動の内容は?

平成31年に設立し、現在は八つの団体が構成されています。設立主体となったサッカーやバレーボールをはじめ、トレッキングや柔道など、個々のクラブの力を結集した新しい形の総合型地域スポーツクラブです。クラブに所属しているのは主に小中高生で、構成団体の一つである学習塾とも連携し、勉強との両立も目指しています。

また、地域の商店街のイベントで、スポーツ体験教室を開き、地域住民との交流も図っています。

A・HAというクラブの名前には、「あはは(AHHA)」と人が集まって笑い合ひ、楽しいと思える場所をつくりたいという思いを込めています。

スポーツを通じた人づくりとは?

自分で答えを見つけ出す力や、相手の気持ちを考える力をつけられるよう、子どもたちの主体性を尊重して指導を行っています。学校や家庭以外に、クラブという居場所があることが、子どもたちにとってはプラスになると思います。

子育て支援の新たな取り組みは?

今年7月から、県の委託を受け、子育て中の女性向けスポーツプログラムを開始しました。

エアロピクスや筋力トレーニングで体を動かし、お母さん方にリフレッシュしてもらいたいのです。保育園や大学を会場とし、現役の保育士による託児スペースもあるので、安心してスポーツを楽しめます。たくさんの方に参加いただき、コミュニケーションの場にもなればと考えています。

今後の展望は?

以前から、「大人の児童館」をつくりたいという夢がありました。地域内の集会所や公園を整備して、高齢者から子育て世代までたくさんの方が集えるコミュニティスペースのようなものをつくるべく、現在奔走しています。

何事も、まずはやってみようというスタンスで挑戦してきました。地域を盛り上げるため、今の活動を着実に積み上げつつ、新しいことにもどんどん挑戦していきたいと思っています。



A・HA仙台総合型
地域スポーツクラブ
理事長 佐藤 智晴さん

知事コラム 村井が走る



宮城県が目指すDXとは

最近DXという言葉をよく耳にします。DXとはDigital Transformation(デジタル トランスフォーメーション)の略字です。通常は文字の1字をとって略字とするのですが、Transformationという文字にはXという文字が入っていません。確認したところTransformationには交差という意味があるので交差を表すXという文字が使われているということでした。DXはデジタル技術を活用して仕事の効率化を図るIT化と違い、

大局的なレベルでサービスやビジネスモデルの変革を図るものです。つまりIT化はあくまで「手段」であるのに対しDXは「目的」であると言えるわけで、IT化を進めそれらの技術を交差させることによって、組織横断的に今までにない行政サービスを実現することが大切だということです。今までは県の情報をオープンにして誰でも見ることができるようにはしていましたが、今後はご本人に必要な情報を適時適切に直接スマホなどにお届けできる社会を目指して変革していくつもりです。また、これから増えるであろう外国人観光客や定住外国人に対しても必要な情報を直接お届けできる環境を作っていくと思います。もちろん、スマホなどの機器に不慣れな方もおられるでしょうから、そうした県民の方に対するケアも考えていかなければなりません。県民の皆さんからの連絡を待つ「受動型県政」から積極的に情報を届ける「能動型県政」への変革を目指して頑張っていきたいと思います!

宮城県知事 村井 嘉浩